# 機械語入門

### コンピュータ用語

#### n進数

コンピュータープログラムをしていると1つの数字を2進数、10進数、16進数と様々な表現で表すことがあります。ここで整理しておきましょう。

### 2進数

コンピュータの数値の最小単位をビットと言い、Oと1の2つのみの数字で表します。

コンピュータの容量を表すときにメインメモリー、HDD、CD/DV Dなど多くの場合はバイト(bytes)の単位を使用しますが、ROMなどの場合はビットで表します。読み書きできる最小の単位で決まります。

### 10進数

Oから9までの数字を使用して1つの桁を表します。通常一般的によく使用する数値表現です。

#### 16進数

## ニブル

あまり最近では聞かないのですがニブルという用語があり4ピット単位に区切ります。

8の桁	4の桁	2の桁	1の桁
1	1	0	0

8 + 4= 12 (0xc)

8の桁	4の桁	2の桁	1の桁	
1	1	1	1	

8 + 4 + 2 + 1 = 15 (0xf)

### 0x00 のピットイメージ

bit7	bit6	bit5	bit4	bit3	bit2	bit1	bit0
0	0	0	0	0	0	0	0

ビットをニブル単位(4つに)区切って考えると計算しやすくなります。 上位の4bitは0下位の4bitは0なので 0x00となります。

#### 0xa5 のピットイメージ

bit7	bit6	bit5	bit4	bit3	bit2	bit1	bit0
1	0	1	0	0	1	0	1

上位の4bitは10で16進数では0xa、下位の4bitは5なので 0xa5となります。

#### 0xff のピットイメージ

bit7	bit6	bit5	bit4	bit3	bit2	bit1	bit0
1	1	1	1	1	1	1	1

上位の4bitは8+4+2+1=15(0xf)

下位の4bitも8+4+2+1=15(0xf)なので

10進数では255で16進数では0xFFとなります。

#### 1 Bytesでbit7が符号ありとなしの場合

コンピュータで扱う整数は符号あり、なしの概念があり、整数の表し方が変わります。 1バイトを栗ラス場合に0xffだとすとろ符号なし整数では255ですが、符号ありだと-1になります。 これを2の歩数表現といいます。

16進数	10進数(符号なし)	10進数(符号あり)
0x0	0	0
0x1	1	1
0x2	2	2
0x3	3	3
0x7F	127	127
0x80	128	-128
0x81	129	-127
0x82	130	-126
0x83	131	-125
0xFC	252	-4
0xFD	253	-3
0xFE	254	-2
0xFF	255	-1

# ハードウェア

### **CPU**

## 80386のレジスタ

レジスタ	意味
EAX	アキュムレータレジスタ

EBX	ベースレジスタ
ECX	カウンタレジスタ
EDX	データレジスタ
ESP	スタックポインターレジスタ
ESI	ソースレジスタ
EDI	デスティネーションレジスタ
EFLAGS	フラグレジスタ

## EFLAGレジスタの31~24ビット

31	30	29	28	27	26	25	24
0	0	0	0	0	0	0	0

# EFLAGレジスタの23~16ピット

23	22	21	20	19	18	17	16	
0	0	ID	VIP	VIF	AC	VM	RF	

## EFLAGレジスタの15~8ピット

15	14	13	12	11	10	9	8
0	NT	IOPL		OF	DF	IF	TF

# EFLAGレジスタの7~0ビット

7	6	5	4	3	2	1	0
SF	ZF	0	AF	0	PF	1	CF

# EFLAGレジスタの重要なbit

bit	意味
0	CF:キャリーフラグ。最後の算術演算操作で加算においてレジスタの大きさを越えてビットのキャリー(桁上がり)かボロー(桁借り)をした場合にセットされる。これは、キャリーの生じた加算やボローの生じた減算の次の操作がされた場合に、1個のレジスタだけ扱うことのできる値であるか確認するのに使われる。
2	PF:パリティフラグ。結果の最下位バイトに値1のピットが偶数個含まれている場合にセットされ、奇数個の場合にはクリアされる。
6	ZF : ゼロフラグ。操作の結果がゼロ (0) になった場合にセットされる。
7	SF:符号フラグ。操作の結果が負となった場合にセットされる。

その他は省略します。

X86アセンブラ/x86アーキテクチャ - Wikibooks

## メモリー

# アドレス

メモリーはアドレスが割り振られている。

1つのアドレスに1バイトの数字が保存できる。アドレスは0x00000000~0xFFFFFFで4294967296番地で4Gbyte分の数字を格納できることになる。

アドレス	+15	+14	+13	+12	+11	+10	+9	+8	+7	+6	+5	+4	+3
0x0000000	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00
0x0000010	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00
0x0000020	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00
0x0000030	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00
0x0000040	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00
0x0000050	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00
0x0000060	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00
0x0000070	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00
<									>				

# 命令表

コード	名前	意味
00	add	
03 FF	add edi,edi	
08	or	
10	adr	
18	sbb	
20	and	
28	sub	
30	xor	
33 C0	xor eax,eax	eaxレジスタにOを代入する
33 C1		
33 D2	xor edx,edx	edxレジスタにOを代入する

3B C2	cmp eax,edx	eaxとedxを比較する
3B EC	cmp ebp,esp	ebpとespを比較する
40	inc	レジスタの内容を+1する
42	inc edx	edxレジスタの内容を+1する
48	dec	レジスタの内容を-1する
4D	dec ebp	ebpレジスタの内容を一1する
50	push eax	eaxレジスタをスタックにpushする
53	push ebx	ebxレジスタをスタックにpushする
54	push esp	
55	push ebp	
56	push esi	
57	push edi	
5B	pop ebx	
5C		
5D	pop ebp	
5E	pop esi	
5F	pop edi	
68 ?? ?? ?? ??	push \$???????	
7E ??	jle \$??	
7F ??	jg \$??	
81 C4 ??	add esp,\$??	
83 C4 ??	add esp,??	
85 C0	test eax,eax	
8B 01	mov eax,dw ord ptr [ecx]	
8B 40 ??	mov eax,dw ord ptr [eax+\$??]	
8B C8	mov ecx,eax	
8B CE	mov ecx,esi	
8B E5	mov esp,ebp	
8B EC	mov ebp,esp	
8B F0	mov esi,eax	
8D BD ?? ?? ?? ??	lea edi,\$???????	
90	nop	何もしない

Α0	mov al	
B8 ?? ?? ?? ??	mov eax,\$???????	
B9 ?? ?? ?? ??	mov ecx,\$???????	
BA ?? ?? ?? ??	mov edx,\$???????	
BF ?? ?? ?? ??	mov edi,1\$???????	
СЗ	ret	
D1	shl dw ord ptr [ebp-8],1	
D1 FF	sar edi,1	
E0	loopnz ecx	ecxを一1してO以外だったらPCを移動する
E8 ?? ?? ?? ??	call \$???????	
E9	jmp \$???????	
F3 AB	rep stos dw ord ptr es:[edi]	
FF 10	call dw ord ptr [eax]	

#### 参考URL

coder32 edition | X86 Opcode and Instruction Reference 1.12

### load / store

### 演算

- 加減算
- 比較
- シフト命令
- 論理演算
- ビット演算

## ジャンプ、分岐命令

jp, jz

## サブルーチン呼び出し

● call,ret命令

## 待避•復帰命令

● push,pop アルゴリズムで出てくるスタック構造です。

## 入出力命令

• IN, OUT

### 割り込み

NMI, V-Blank

#### IOポート

## C/C++言語を逆アセンブルする

### 最初のプログラムはmainから起動する?

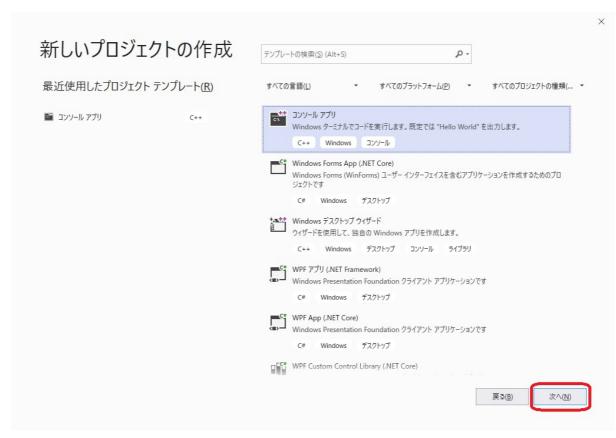
● main関数の前に動いているプログラムがあることを説明

#### コンソールアプリケーションを作る

- 1. Visual Stduio 2019を起動します。
- 2. 新しいプロジェクトの作成を選びます。



3. [コンソールアプリケーション]を選択して次へを選びます



4. 以下の画面のように設定する



ファイル名(N): ConsoleApplication1

場所(L): 任意

ソリューションのディレクトリを作成(D)にチェックをつける

1. 以下のソースコードが作成されました

```
#include <iostream>
int main()
{
    std::cout << "Hello World!\n";
}</pre>
```

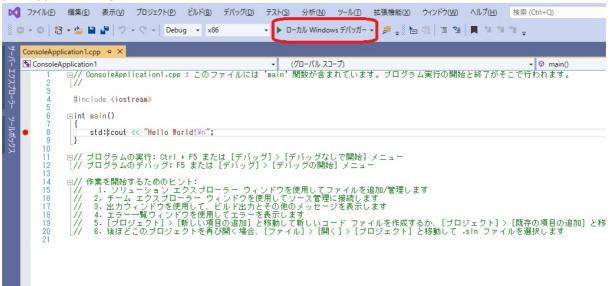
### C/C++言語のプログラムを逆アセンブラして機械語の動作を理解する

#### main関数にブレークポイントを設定

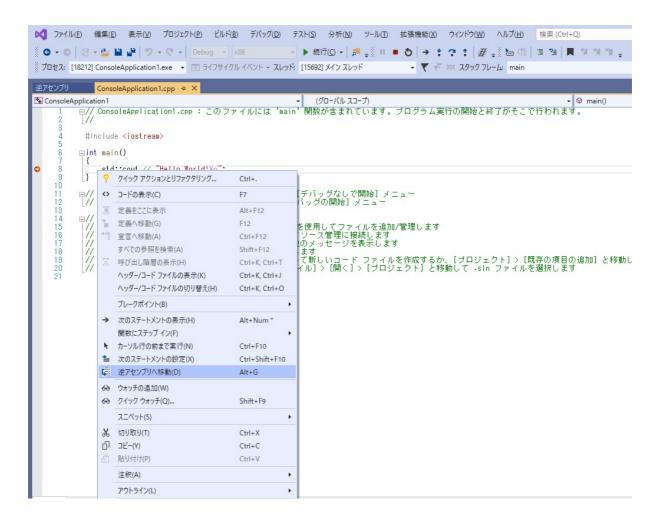
- 1. C/C++言語の起動直後にブレークポイントを設定したいのでmain関数にに直接ブレークポイントを設定します。 [メニュー]-[デパック]-[ブレークポイントの作成]-[関数のブレークポイント(F)...]を選びます。
- 2. 新しい関数のブレークポイントダイアログで関数名にmainと設定します。



3. [メニュー]-[デバックの開始]又はローカルWindowsデバッカを起動を選びます。



4. ソースコード上でマウス右メニューを開いて逆アセンブルへ移動を選びます。



5. 表示オプションを開きコードバイトの表示と行数を表示に ✓ をつける

```
✓ ファイル(E) 編集(E) 表示(Y) プロジェクト(P) ピルド(B) デバッグ(D) テスト(S) 分析(N) ツール(D) 拡張機能(X) ウィンドウ(W) ヘルブ(H) 検索 (Ctrl+Q)
③ - ⑤ | 浴 - 🖕 🖺 🛂 | ヴ - ୯ - | Debug - | x86 - - - ト 続行(○ - | 🎜 🛫 | 11 ■ 🐧 | → : ? : | 桜 - ※ ե 幅 | 🧏 🧏 | 11 | 11 | 11 | 11 |
                                                                                                                     - ▼ ₹ ≈ スタックフレーム: main
プロセス: [18212] ConsoleApplication1.exe 🔹 🛐 ライフサイクル イベント 🕶 スレッド: [15692] メイン スレッド
逆アセンブリ セ × ConsoleApplication1.cpp
アドレス(<u>A</u>): main(void)
    ☑ コードバイトの表示☑ アドレスの表示
    ☑ ソース コードの表示 ☑ シンボル名の表示
    ✓ 行数を表示
       4: #include <iostream>
5:
        o:
6: int main()
7: {
                                         push
mov
sub
  00DB24A0 55
   00DB24A1 8B EC
00DB24A3 81 EC CO 00 00 00
   00DB24A9 53
                                         push
                                                         ebx
   00DB24AA 56
                                         push
   00DB24AB 57
                                         push
000B24AB 57 push
000B24AC 8D BD 40 FF FF lea
000B24B2 B3 30 00 00 00 mov
000B24B7 B3 CC CC CC CC mov
000B24BC B3 CC CC CC CC mov
000B24BC B3 AC CC CC CC cc call
000B24BC B3 AE DF FF FF Call
8: std::cout << "Hello World!¥m";
□000B24BC 88 80 9B DB 00 push
                                                         edi,[ebp-0C0h]
                                                         ecx,30h
eax,0000000000h
                                                        dword ptr es:[edi]
ecx,offset _8958AEDC_ConsoleApplication1@cpp (ODBE026h)
@_CheckForDebuggerJustMyCode@4 (ODB126Ch)
                                                        offset string "Hello World!¥n" (ODB9B3Oh)
                              DO push
<< "Hello World!¥n";
  8: std::cout <<

00DB24CD A1 C8 D0 D8 00

00DB24D2 50

00DB24D3 E8 30 ED FF FF

00DB24D8 83 C4 08
                                                         eax,dword ptr [_imp_?cout@std@@3V?$basic_ostream@DU?$char_traits@D@std@@@1@A (ODBDOC8h)]
                                                         eax
std:<u>:</u>operator<<<std::char_traits<char> > (0DB1208h)
                                         add
                                                        esp,8
  9: }
00DB24DB 33 CO
00DB24DD 5F
00DB24DE 5E
                                                        eax,eax
                                         pop
                                                         esi
  000B24DF 5B
000B24EF 5B
000B24E0 81 C4 C0 00 00 00
000B24E8 BB C0
000B24E8 BB 89 ED FF FF
000B24EB BB 89 ED FF FF
                                                         ebx
                                         hhs
                                                         esp.ACOh
                                                         ebp,esp
__RTC_CheckEsp (ODB1276h)
esp,ebp
                                         mov
   00DB24EF
                                         gog
  00DB24F0 C3
  --- ソース ファイルがありません -
00DB24F1 CC int
100 %
```

以下の様にソースコードとアセンブラが共存した逆アセンブル画面が表示できたと思います。

```
1: // ConsoleApplication1.cpp : このファイルには 'main' 関数が含まれています。
2: //
3:
4: #include <iostream>
5:
6: int main()
7: {
00DB24A0 55
                            push
                                        ebp
00DB24A1 8B EC
                            mov
                                        ebp,esp
00DB24A3 81 EC C0 00 00 00 sub
                                        esp,0C0h
00DB24A9 53
                            push
                                        ebx
00DB24AA 56
                            push
                                        esi
00DB24AB 57
                             push
                                        edi
00DB24AC 8D BD 40 FF FF FF lea
                                       edi,[ebp-0C0h]
00DB24B2 B9 30 00 00 00 mov
                                       ecx,30h
00DB24B7 B8 CC CC CC CC
                                        eax,0CCCCCCCh
                            mov
                            rep stos dword ptr es:[edi]
00DB24BC F3 AB
00DB24BE B9 26 E0 DB 00
                          mov
                                        ecx,offset _8958AEDC_ConsoleApplication1@cpp (0DBE026h)
00DB24C3 E8 A4 ED FF FF
                           call
                                        @__CheckForDebuggerJustMyCode@4 (0DB126Ch)
      std::cout << "Hello World!\n";</pre>
00DB24C8 68 30 9B DB 00
                                        offset string "Hello World!\n" (0DB9B30h)
                            push
00DB24CD A1 C8 D0 DB 00
                            mov
                                        eax,dword ptr [_imp_?cout@std@@3V?$basic_ostream@DU?$char_traits@D@std@@@1@A (0D
00DB24D2 50
                             push
                                        eax
00DB24D3 E8 30 ED FF FF
                            call
                                        std::operator<<<std::char_traits<char> > (0DB1208h)
00DB24D8 83 C4 08
                            add
                                        esp,8
00DB24DB 33 C0
                            xor
                                        eax.eax
00DB24DD 5F
                                        edi
                             pop
00DB24DE 5E
                                        esi
                             pop
9: }
00DB24DF 5B
                                        ebx
                             pop
00DB24E0 81 C4 C0 00 00 00
                             add
                                        esp,0C0h
00DB24E6 3B EC
                                        ebp,esp
                             cmp
```

```
      00DB24E8 E8 89 ED FF FF
      call
      __RTC_CheckEsp (0DB1276h)

      00DB24ED 8B E5
      mov
      esp,ebp

      00DB24EF 5D
      pop
      ebp

      00DB24F0 C3
      ret
```

1. [メニュー]-[デバック]-[ステップオーバー(O)] を選びステップ実行します。F10を一回押すと機械語1命令を実行します。

```
1. デバッカーをいったん停止して下さい。
<img width="1024" src="./img/VS2019Project14.png">
### Releaseピルドして 逆アセンブルを確認

1. Release に変更して 開始又はローカルWindowsデバッカを起動を選びます。
<img width="1024" src="./img/VS2019Project15.png">
1. ソースコード上でマウス右メニューを開いて逆アセンブルへ移動を選びます。

Debugピルド時には27命令のアセンブラプログラムだったのが4命令のプログラムになりました。
これがコードの最適化が行われて無駄のないコードに変換されました。
```

8: std::cout << "Hello World!\n"; 00171000 8B 0D 4C 20 17 00 mov ecx,dw ord ptr [imp?cout@std@@3V?\$basic\_ostream@DU? \$char\_traits@D@std@@@1@A (017204Ch)] 00171006 E8 05 00 00 00 call std::operator<< > (0171010h) 9: }

0017100B 33 C0 xor eax,eax

0017100D C3 ret

```
### ソースコードにブレークポイントを設定
- int main()の横にマウスカーソルを合わせて赤いマークを付ける
又はソースコードにカーソルを合わせます
<img width="1024" src="./img/VS2019Project10.png">
```

[メニュー]-[デバック]-[ブレークポイントの設定/解除]で設定します。

※F9 キーで設定可能です。

### C言語のプログラムを逆アセンブラしてみよう(その2)

```
C++
#include

int main()
{
  int number = 0x01234567;
  printf("number=%d", number );
}
```

### Debugビルドして 逆アセンブルを確認

#include

#include

```
int main()
{
010E42F0 55 push ebp
010E42F1 8B EC mov ebp,esp
010E42F3 81 EC CC 00 00 00 sub esp,0CCh
010E42F9 53 push ebx
010E42FA 56 push esi
010E42FB 57 push edi
010E42FC 8D BD 34 FF FF FF lea edi,[ebp-0CCh]
010E4302 B9 33 00 00 00 mov ecx,33h
010E4307 B8 CC CC CC CC mov eax,0CCCCCCCh
010E430C F3 AB rep stos dw ord ptr es:[edi]
010E430E B9 0A C0 0E 01 mov ecx,offset 001BD82A consoleapplication1@cpp (010EC00Ah)
010E4313 E8 FA CE FF FF call @__CheckForDebuggerJustMyCode@4 (010E1212h)
int number = 0x01234567;
010E4318 C7 45 F8 67 45 23 01 mov dw ord ptr [number],1234567h
printf("number=%d", number);
010E431F 8B 45 F8 mov eax, dw ord ptr [number]
010E4322 50 push eax
010E4323 68 30 7B 0E 01 push offset string "number=%d" (010E7B30h)
010E4328 E8 1E CD FF FF call _printf (010E104Bh)
010E432D 83 C4 08 add esp,8
}
010E4330 33 C0 xor eax,eax
010E4332 5F pop edi
010E4333 5E pop esi
010E4334 5B pop ebx
010E4335 81 C4 CC 00 00 00 add esp,0CCh
010E433B 3B EC cmp ebp,esp
010E433D E8 DA CE FF FF call __RTC_CheckEsp (010E121Ch)
010E4342 8B E5 mov esp,ebp
010E4344 5D pop ebp
010E4345 C3 ret
   ### Releaseビルドして 逆アセンブルを確認
    int number = 0x01234567;
    printf("number=%d", number);
00F71040 68 FF 00 00 00 push 1234567h
00F71045 68 F8 20 F7 00 push offset string "number=%d" (0F720F8h)
00F7104A E8 C1 FF FF FF call printf (0F71010h)
00F7104F 83 C4 08 add esp,8
00F71052 33 C0 xor eax,eax
00F71054 C3 ret
```